

# 畜産試験場だより

## 酪農試験場

酪農経営および養豚経営の合理化により、農家所得の増大を図るため試験場では乳牛および豚を繁養し、飼育管理繁殖ならびに飼料等に関する試験研究種雄畜による改良繁殖、人工授精、などの業務のほか長期および短期の酪農講習による技術者および中堅農家の教育、さらに講習会、研修会および実地指導による技術の普及啓蒙、成羽町の酪農経営改善指導所においては酪農自立経営の展示ならびに指導を行っている。

◎試験場には庶務課と業務第一課、業務第二課、業務第三課に別れている。

業務第一課においては種雄牛の飼育管理改良計画、人工授精、精液の配布、搾乳牛の飼育管理、成羽にある酪農経営改善指導所の運営指導並びに中国酪農講習所に関する事を、第二課においては、試験研究分析調査を主として行い本年度は乳用牛の飼育管理、衛生試験飼料の給与試験、犢の発育試験調査研究、牛乳の加工試験、飼料の分析試験を行っている。第三課においては種豚改良の試験調査研究、豚の飼育管理、改良計画、人工授精飼料給与基準の設定試験、県が新しく選定したランドレース種を蕃殖仔豚の払下、またこれを基幹とした経営技術の研修指導等養豚全般につき行っている。

また圃場経営、飼料作物の栽培試験、優良牧草の導入、飼料の加工調製試験研究等をそれぞれ分掌して行っている。

### 優秀な家畜で改良研究

現在試験場に飼養されている乳用種雄牛は、15頭のホルスタイン種と2頭のジャージー種で、遠く外国から直輸入されたものは2頭で北海道から導入されたものが7頭、他は岩手県、静岡県、愛知県、福島県等から導入されたもので、県内で生産されたものは2頭である。

◎めす牛は全部ホルスタイン種で成牛は32頭育成牛は23頭である。成牛は試験牛のほかは改良の基礎となるもので名門系統のものを揃えている。その主な

る系統はマダム系マーセーズ系であり、そのほか現代的多頭飼育、省力管理また経済的に飼養管理の容易な強健連産能力のよい北海道の月寒または新冠種畜牧場より導入したスノー系ホワイト種に本県の種畜場時代に活躍し、古い酪農家なら誰でも知っていると言われるイスメー系などが主なものである。

◎豚は昭和36年度にスエーデンより輸入されたランドレース種の雄5頭雌25頭が飼養されていてこれらのものから生産されたものが150頭と中ヨークシャ一種が1頭である。

繁殖力が旺盛で発育の極めて早いランドレース種の仔豚は生後80日位たつと県下の指定種豚場へ払下げている。

### 最高の技術で精液の保存

当場に飼養している17頭の種雄牛は全部人工授精に供用のもので週に2回精液採取して精密な検査を行い保存稀釈液を加えてアンプール詰として県北13ヵ所の家畜保健衛生所および岡山県家畜人工授精所へ月曜日と木曜日に定期輸送している。

昭和37年度中に配布したストローの数は7万600本である。

◎またこの牛ならではと言われる優良なる種雄牛も年を経るにつれて貴重な精液の採取が困難となり、いついかなる事故が発生するか判らないのでこのような牛の精液は最高科学技術をもって凍結精液を調製して保存している。

◎試験研究は新時代の各種試験場に果せられた使命であり、これが現代の動く農業の中での生命であり農業構造改善事業とタイアップしてすぐ役立つ試験を行うほか国の助成をうけて重要な試験項目と取り組んでいる。

◎県勢振興計画によると昭和45年度末増殖目標はランドレース種8万頭となっておりこれらの種畜供給のため種豚場としての重大使命をうけ懸命の努力を払っている。

ことに優良なる種豚を確保し系統蕃殖を行い、改

## 岡山畜産便り 1963.08

良の基礎となる仔豚の払い下げを行っている。

◎飼料生産では耕地6ヘクタール放牧採草地8ヘクタールに飼料作物、牧草を栽培するため大型機械数を使用して67頭の大家畜の基本飼料の確保をはかっている。

### 酪農経営の中堅者の養成

試験研究としては、飼料作物の高位生産に関する研究、牧草類の優良系統栽培採種調査、各種飼料作物、牧草類の嗜好性調査、人工育草の栽培に関する試験を行っている。

講習所は、酪農経営の中堅となる指導者を養成するため昭和28年併設されたもので、以来10回192名の卒業を送り良識あるよき技術者として第一線で活躍している。

◎本年度は17名の講習生が4月に入所して寮生活を営みつつ学科に実地に朝の食前作業から夜間の搾乳に至るまで流汗鍛錬勤労愛好の精神で大きな希望の夢をいだき働きつつ学んでいる。講習所の名称は中国酪農講習所であるが隣県は勿論九州、四国から■  
■な青年が来ている。

また速成短期講習者の養成も短期寮を開放し宿泊させ酪農に関する教育を行っている。